令和元年度　第１回いにしえ倶楽部
2019年６月23日（日）島根県埋蔵文化財調査センター

古墳時代の江の川？　－江津市・森原神田川遺跡２区の発掘調査－

調査第二課　宮本 正保

１．遺 跡 名　**森原神田川**（もりはらじんでがわ）**遺跡２区**
２．所 在 地　江津市松川町八神地内
３．調査理由　平成30年度一級河川江の川直轄河川改修事業
４．調査主体　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
５．調査期間　平成30年５月～平成30年11月
６．調査面積　2,100㎡
７．調査概要

（１）遺跡の立地

本遺跡は江の川下流の右岸に開けた小平野に立地します。標高は約６ｍで、最近まで水田や畑地として利用されていました。遺跡の北側には平成29年度に調査を実施した森原神田川遺跡１区が、南側には現在発掘調査を実施している森原上ノ原遺跡があります。周辺にはこのほか、八神上ノ原遺跡などの集落遺跡や中世の山城である千本崎城も存在します。

（２）調査の概要

調査地は近年まで水田だったところで、地表から深さ約1.5mまでは現代～江戸時代頃の水田耕作土が厚く堆積していました。この土を取り除くと、調査区の東側を中心に粘土の層が存在しており、東西方向に流れる複数の川や水路の跡（SR01～09）、浅い掘り込みを持つ性格不明の施設（SX01）が見つかっています。

さらに掘り進めると、調査区の中央から西側で、現在の江の川と平行するように南北方向に流れる大きな川の跡（SR10）を発見しました。

（３）調査結果

調査区東側で確認した川や水路の跡は、SR01が幅20m以上、SR02、03も最大幅が約10ｍあります。また、SR02では幅の狭い部分に石積みがあり、水量を調節する堰（せき）の機能を果たしたと考えられます。

これらの川や水路からは、縄文時代から江戸時代までさまざまな時期の土器や陶磁器が出土していますが、造られた時期は概ね戦国時代～江戸時代初め頃と考えられます。

性格不明の施設（SX01）は、施設の基礎部分がわずかに残存しているのみですが、周辺で鉄滓が出土したことから、製鉄・鍛冶に関連する性格が考えられます。

南北方向に流れる大きな川の跡（SR10）は東岸のみ発見され、規模や流れる方向から考えて、古い時代の江の川の本流跡の可能性が高いです。川底に近い部分から完全な形に近い土器やカマドが大量に出土したほか、ミニチュア土器、勾玉の模造品なども出土しています。

これらの出土品の時期は古墳時代後期～奈良時代が中心で、川岸から転落したか投げ込まれたものと考えられます。

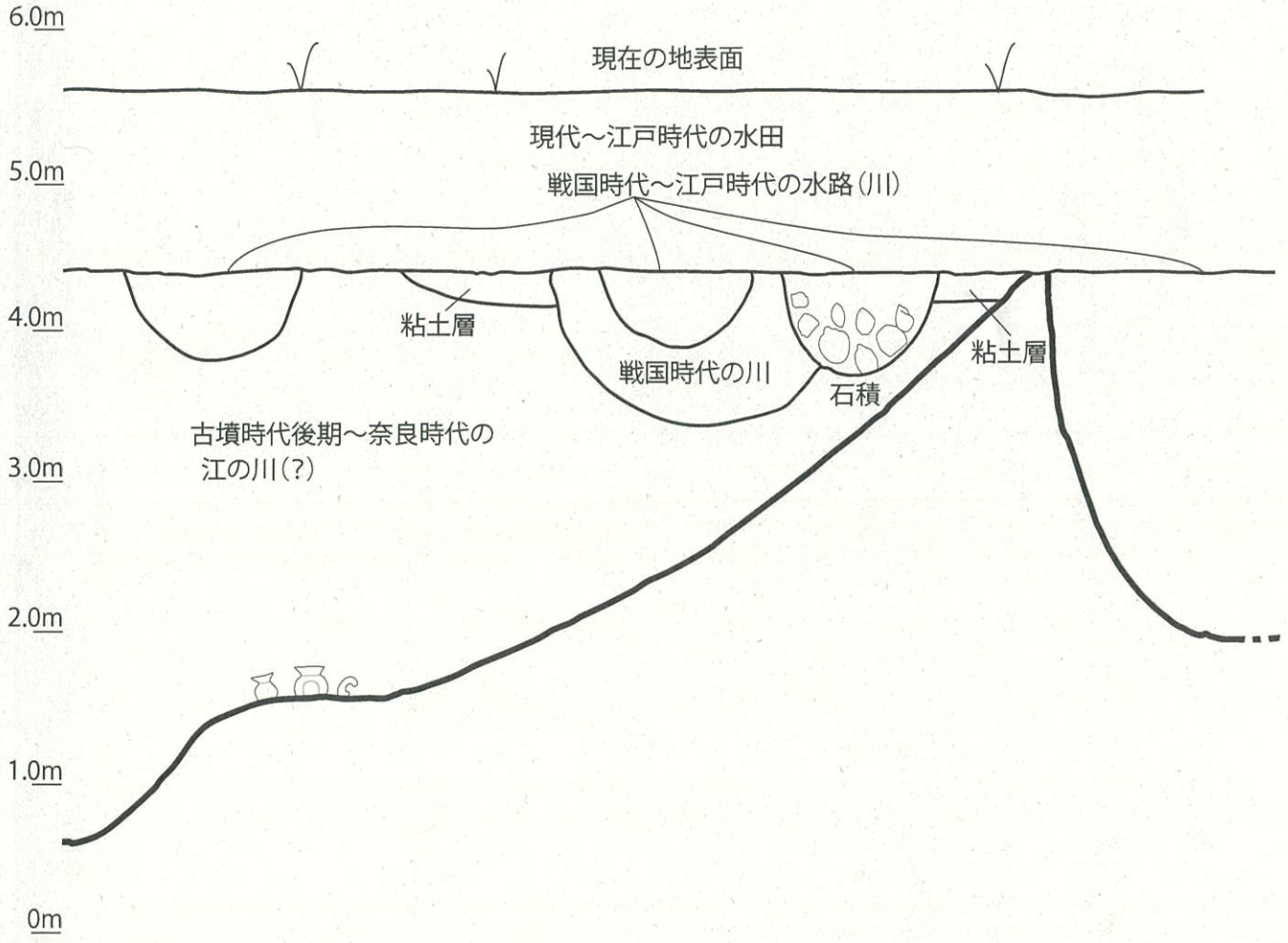
（4）まとめ

今回の調査では、戦国時代～江戸時代の川や水路の跡、古墳時代後期～奈良時代の江の川本流と見られる川跡を確認しました。森原神田川遺跡 1 区では中世末～江戸時代前期の水田跡が発見されており、石積みを持つ水路は当時の水田開発と関連する可能性が考えられます。

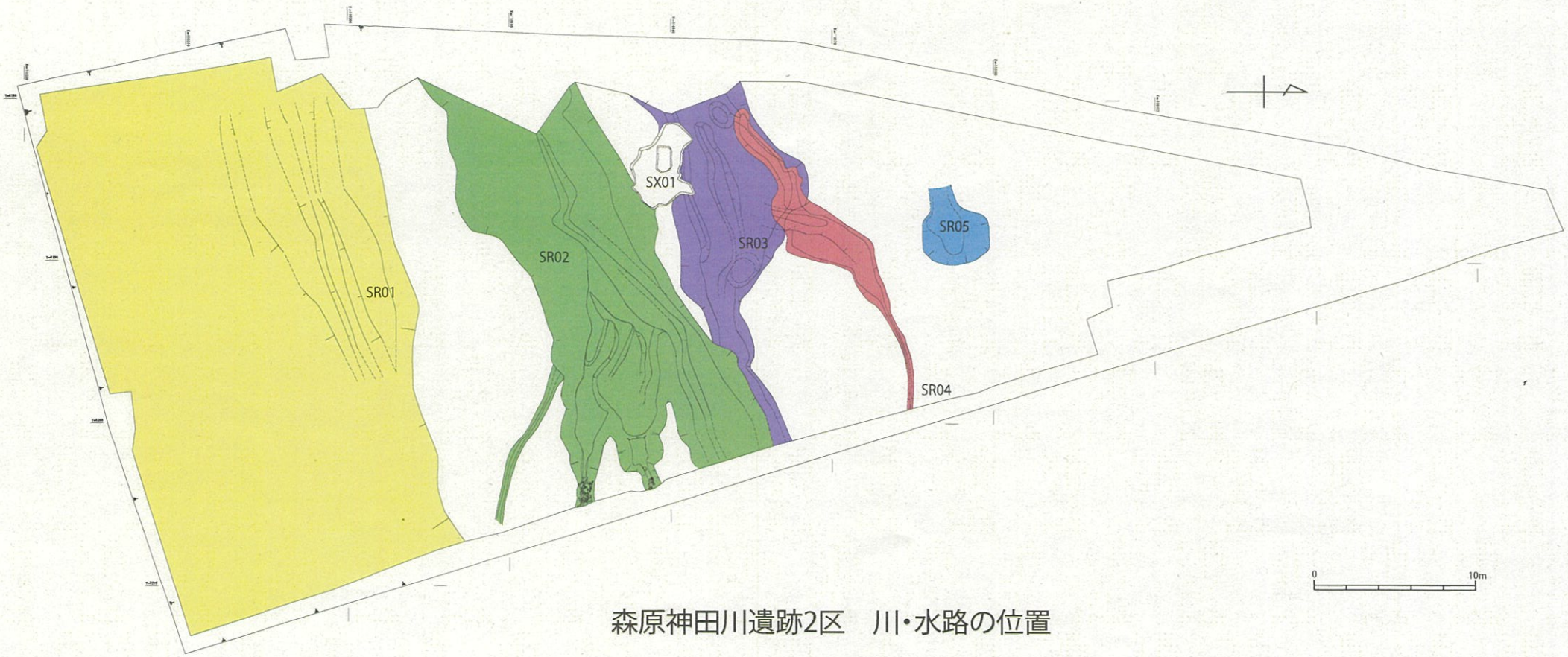
また、川跡からの出土品に見られるミニチュア土器や勾玉模造品は、実用品ではなく、何らかのマツリに使用されたと考えられています。当時の人々によって、江の川の川岸で土器やカマド、ミニチュア土器や勾玉模造品を使ったマツリが執り行われ、その後マツリに使用した土器などを川に投げ込んだことが想定されます。

以上のように、この遺跡では、古墳時代後期～奈良時代の江の川本流と見られる川跡が見つかり、当時のこの地域の人々の生活や環境を考える上で重要な調査例となりました。また、森原神田川遺跡 1 区で発見された水田跡とあわせ、江の川流域の戦国時代～江戸時代の水田開発や景観を検討していく上でも重要な成果を得たといえます。

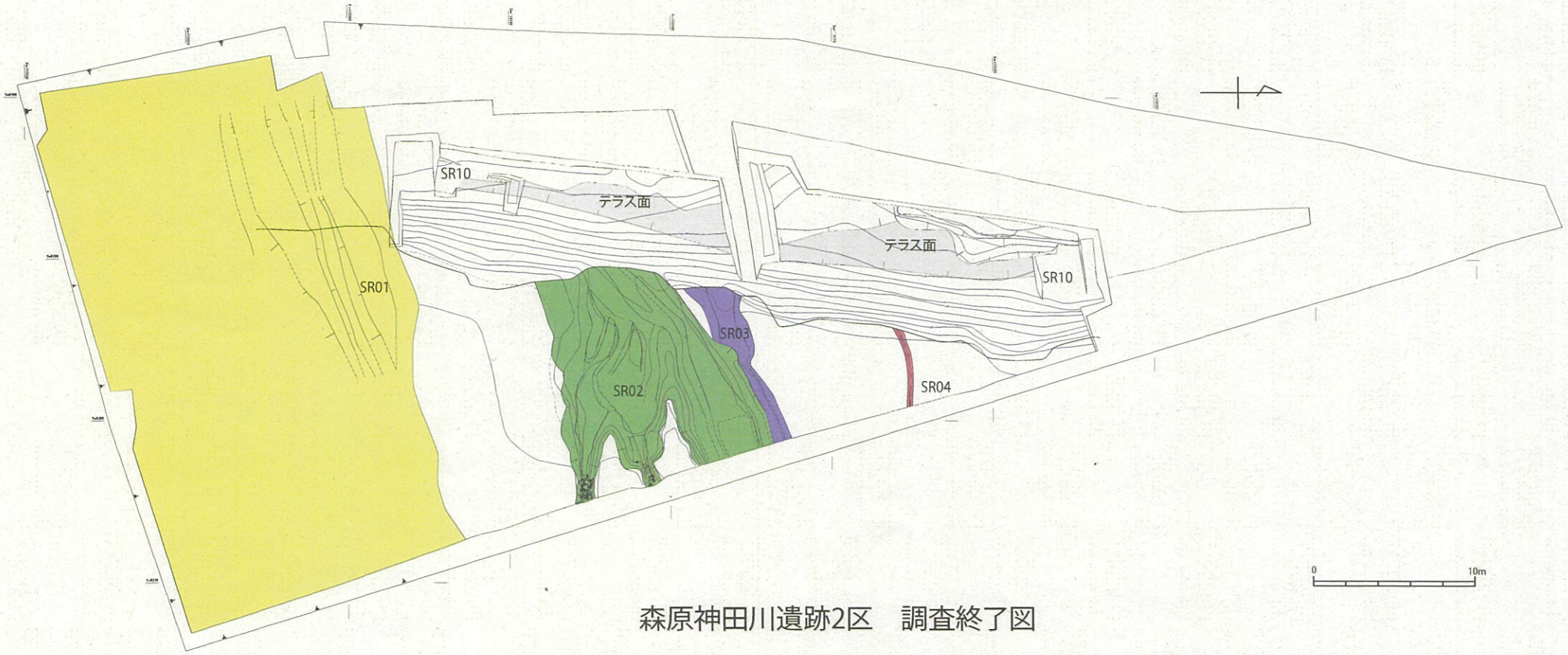
森原神田川遺跡 2 区位置図（S＝1 /25000）



森原神田川遺跡（2区）の地下の様子
（模式図）



森原神田川遺跡2区　川・水路の位置



森原神田川遺跡2区　調査終了図

森原神田川遺跡2区　空中写真（北から）

SR02・03検出状況

SR02　石積み

SR10の掘削